

佳賓好主

佐藤一齋

月梅花訪主為

梅月影邀佳賓作

佳賓好主兩双絶

管領黄昏一刻春

【作者】佐藤一齋(一七七二〜一八五九年)江戸後期の儒学者。安永元年十月江戸浜町(はまちょう)の美濃(みの)岩村藩邸に生まれる。

名は坦(たん たいら)、字は大道(たいどう)、捨蔵(すてぞう)と称し、号は一齋。中井竹山その他に学び、晩年昌平齋(しょうへいこう)の儒官となり、安政六年九月没す。年八十八。麻生深広寺(あさぶしんこうじ)に葬る。

【語釈】*佳賓好主…佳い賓客(ひんかく) おきやく)と好い主人 *月影…月の光 *邀…まちうける むかえる

*雙 絶…好一对のすぐれた風景 *管 領…支配する・自分のものとする *黄 昏…ゆうぐれ、たそがれ

【通釈】月は美しく咲く梅の花を訪(おとず)れて(照らして)とても良い主人だとし、梅の花は月影をむかえてとても良い客だとする。佳(よ)い客と好い主人(月と梅)は好一对のすぐれた風景をもたらし、春の夕暮れの時(ひととき)をわがものとしているのである。